

## 生産性を分析する

## Q. 生産性分析の意味と改善方法は？

**要旨** 企業の価値は、どれだけ利益を付加して販売やサービスの提供を行うことができるのかにあると言っても過言ではありません。付加価値を獲得することが企業の命題であり、生産性分析でその付加価値をどれだけ効率的に獲得しているのかを分析し、改善することで企業価値を向上することができます。

## 解説

## 1. 付加価値とは

付加価値には、売上高から控除して求める控除方式と経常利益に加算して求める加算方式の二つの方法があります。

付加価値を二つの側面から計算していますが、中小企業では控除方式が一般的です。

## ①控除法（中小企業庁方式）

付加価値 = 売上高 - 外部購入価値（材料費、購入部品費、運送費、外注加工費など）

## ②加算法（日銀方式）

付加価値 = 経常利益 + 人件費 + 賃借料 + 減価償却費 + 金融費用 + 租税公課

## 2. 効率性と生産性の関係

会社が効率的に売上高を生み出しているかを検証する指標が、効率性です。効率性分析は売上高が考え方の根本にあります。生産性分析は付加価値額を中心に会社の効率性を考えます。会社を存続させるには売上高をあげて、付加価値を獲得する必要があります。売上高が無ければ付加価値を獲得することはできず、売上高があっても付加価値を獲得できなければ意味がありません。そのため、生産性分析だけでなく、効率的に売上高を生み出しているかを示す効率性分析を併せて行うことで、企業の利益

獲得能力をより詳しく理解することができます。

## 3. 生産性は割合だけではなく額にも注目する

会社により、①付加価値を多くして販売数量を少なくする、②付加価値を少なくして販売数量を多くするなど経営戦略が異なります。また、商品ごとでも戦略が異なります。そのため、生産性分析は指標が割合で示されるため、①より②の生産性が悪くなることがあります（特に付加価値率）。

そのため、生産性分析の結果が良くない場合でも、しっかりと付加価値額が計上されていれば問題ありません。生産性分析を参考にしながら、会社の実態を理解する必要があります。

# ヒト・モノ・カネに対する付加価値額を検証し生産性を改善

## ＜ご提案のポイント＞

- ・付加価値は経営の要であり、生産性分析により、どれだけ効率的に付加価値を生み出したかを検証することができます。
- ・付加価値が獲得できていない場合には、原因を究明し改善することにより、企業の稼ぐ力を向上する必要があります。

## 1. 生産性分析の意味

会社は、「ヒト・モノ・カネ」を使って、外部から購入してきたものやサービスに価値を付加して販売します。どれだけの価値を付加できるかが自社の経営の要になります。付加価値を生むために、会社は設備投資を行い、従業員を雇い入れます。付加価値を生み出すために投下された固定資産や労働力（従業員数）に対し、どれだけ効率的に付加価値を生み出したのかを生産性といいます。

## 2. 生産性の分析方法

以下の②③は企業活動の3要素である「ヒト・モノ・カネ」を使って、どれだけ効率的に付加価値を獲得しているかを示します。

付加価値を獲得した後の使い道も気になります。④は付加価値の使途のうち、会社における大きな費用である人件費に、どれだけ分配されているのかを示す指標です。

① 付加価値率（％）	$\frac{\text{付加価値額}}{\text{売上高}} \times 100$
② 資本生産性	$\frac{\text{付加価値額}}{\text{有形固定資産（減価償却累計額を引いた値）}}$
③ 労働生産性	$\frac{\text{付加価値}}{\text{従業員数}}$
④ 労働分配率（％）	$\frac{\text{人件費}}{\text{付加価値}} \times 100$

## 3. 生産性分析の改善方法

生産性分析の数値が厳しければ、極論すれば、分母である付加価値を上げるか、分子である売上高、有形固定資産及び従業員数の数値を小さくすることで改善するしかありません。生産性のすべての指標を一気に改善することは難しく、他社と比較して指標が低いところまたは自社にとって改善の効果が一番大きいところに絞って改善することが必要です。